

◎「きちんとした言葉遣いで一歩リードを」＝学習院大学就活セミナーで古賀講師が講演

「きちんとしたマナーと言葉遣いで就活を成功させよう」－。学習院大学（東京・豊島区）で9月29日、同大キャリアセンター主催による日本語に関する就職活動セミナーが開かれました。日本語検定委員会の公認講師、古賀恵美子さんが1時間30分にわたり、就活本番を迎える学生に、社会でのマナーと言葉遣いの重要性を説明、「きちんとした言葉遣いで、人を一歩リードできるよう日ごろから心掛けて欲しい」と訴えました。



同大のキャリアセンターは、今年4月から従来の就職部が改組されたもので、学生に対する就職支援を充実させるとともに、卒業後までも視野に入れたキャリア形成を目指しています。今回、日本語に関するセミナーを取り入れたことについて、森川正和キャリアセンター部長は「若者言葉に気づかせたり、語彙力や文章力を高めたりすることができ、学生の就職活動に役に立つと期待している」と話しました。

この日のセミナーには、2011春卒業予定の3年生を中心に、事務局が事前に準備した資料が不足する205人も学生が参加し、日本語セミナーへの関心の強さがうかがえました。



講師の古賀さんは、就職支援・人材育成を行う株式会社「ひこうき雲」の代表者。講演の中で、JALの国内・国際線客室乗務員としての34年間の乗務や、人事採用担当者としての経験を基に、企業が求める人物像を紹介するとともに、企業採用者に対する第一印象の重要性を指摘。「企業側は自ら考え行動する人を求めている。そのためには、相手に自分の想いをどれだけ伝えることができるかというコミュニケーション能力が問われている」としたうえで、正しい言葉遣いや敬語の使い方など、総合的な日本語の力を高める必要性を強調しました。

また、「服装などの外面はすぐに直せるが、人の内面から出てくる言葉遣いは意識しないと直すのが難しい」と話し、ある大手会社が社員の言葉遣いの失敗を利用者から抗議され、就職内定者に、日本語検定の受検を義務づけるようになった事例を紹介しました。



最後に、参加者全員に10問からなる日本語のミニテストを行い、尊敬語と謙譲語の混同、二重敬語、マニュアル敬語など、相手を不快にさせる間違った敬語、また、「ら」抜き言葉や「さ」入れ言葉など不適切な言葉遣いについて解説。「きちんとした言葉が使えることは自信につながり、人からの信頼感も増す。就活もこわくない。日ごろから自分の日本語を見直して、正しい言葉遣いを

自分の武器にして欲しい」と結びました。（時事通信社記者 牧俊朗）